

平成24年 年頭のごあいさつ



明けましておめでとうございませす。新しい年が市民の皆様にとつて、希望に満ちたすばらしい年となりますよう、心から願うものであります。

昨年3月11日、三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0の国内観測史上最大の巨大地震と大津波、それに併発された原子力発電所事故は、東日本太平洋岸一帯に甚大な被害をもたらしただけでなく、我が国経済を始め、様々な方面に大きな影を落としました。

また、この災害は我々のライフスタイルや価値観にも変化をもたらすし、人と人の絆や地域の連帯感の大切さ、省エネルギーや自然エネルギーの活用を始めとする自然との持続的共生など、これからも持ち続けるべき大切な意識を我々の心に深く刻み込みました。

時間の経過とともに被災地からの明るいニュースも届くようになりましたが、今後とも、「がんばろう日本」をスローガンに日本国中が一つになり、支え励まし合い、速やかに復旧・復興を進めていくことを共に誓い合いたいと思います。

さて、本市では、「学び、発見、実践、みんなで創るスマートシティ（賢い都市）都留」をテーマとする長期総合計画を羅針盤に、諸施策を推進しております。

この長期総合計画は平成18年度からの10年間を計画期間としており、昨年4月からは後半5年間の「後期基本計画」により、まちづくりを進めております。

今年、それらの中でも防災対策の強化や市内バス路線の再構築など、市民の皆様にとっても身近な課題のほか、高校再編後の桂高校校舎並びに跡地の利活用策の検討など、本市の将来に向けての課題にも重点的に取り組んでまいります。

また、昨年は中央都留インターチェンジのフルインター化により各方面からのアクセスが向上すると同時に、都留バイパスの延伸や宝バイパスの開通などにより道路ネットワークも充実されました。

さらに、豊富な水資源を活用した家中川小水力市民発電所「元気くん1号・2号」「エコハウス」や「植物工場展示施設」などの環境に特化した施設群にも、東日本大震災に伴う自然エネルギーへの関心の高まりとともに、国内外から多くの皆さまが視察に訪れています。

本年2月には開放型らせん水車「元気くん3号」も完成し、「環境学習フィールド」が充実されますが、そうした豊かな自然やそれを利活用した施設、そして古来より城下町として栄えてきた特色ある歴史や文化などの地域資源を最大限に生かした「参加・学習・体験都市つる」を推進してまいります。また、環境への関心の高まりをチャンスとして、平成の名水百選に選ばれた「十日市場・夏狩湧水群」の保全と活用などの様々な環境施策を有機的に結び付け、さらに地域産業の振興へと繋げていく「エコロジカル・バランスタウン」の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

本年も小さくともキラリと光る個性的で魅力的な、住んでよし・訪れて良しの都留（まち）づくりを実践してまいりますので、市民の皆様の参加・協働をお願い申し上げます。

平成24年元旦

都留市長 小林義光